

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2006～2009

課題番号：18529001

研究課題名（和文）

デジタルアーカイブとしての文学全集の可能性

ー編集文献学に基づく新時代の文献学の模索

研究課題名（英文）

The Possibility of Complete Works of Literature as Digital Archives:

In Search of a New Age of Philology Based on Scholarly Editing

研究代表者

明星 聖子 (MYOJO KIYOKO)

埼玉大学・教養学部・准教授

研究者番号：90312909

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学

キーワード：編集・文献学・文学・デジタル・アーカイブ・テキスト

1. 研究計画の概要

1970年代よりドイツで飛躍的に発展した「編集文献学」(Editionsphilologie)を批判的に継承しながら、デジタルメディア時代にふさわしい文学研究資料基盤形成のための新しい文献学の可能性を模索するーこれが、今回の研究目的である。この目的に向けて、本プロジェクトでは、主に以下の3つの課題に取り組んでいる。

- (1) 紙メディアを前提とした編集文献学理論の検討
- (2) 欧米の文学系デジタルアーカイブ・プロジェクトの現状分析
- (3) アーカイブズ学との接点の模索

2. 研究の進捗状況

平成18年度から19年度にかけての研究で判明したもっとも重要な点は、欧米のデジタルアーカイブの背景にある理論は、当初の予想に反し、ドイツの編集文献学というよりむしろそこから派生した現実よりのアングロ・サクソン系理論であるということであった。そこでその理由を探るべく、平成19年度に、計画から若干外れて、すでに別の研究者によって開発されている文献学編集システムにカフカ・テキストを載せる実験を試みたところ結果的に失敗、従来の発想では、ドイツ的な理想の「史的批判版全集」の実現は不可能であることが明らかになった。しかし、実験としては失敗したその経験から、ま

ったく新しい「編集」と「出版」の概念を着想、それに基づき、独自の編集システムを設計して、プロトタイプ開発まで一気に成功させた。今回の研究課題のスピンオフとしてのその成果は、平成20年にフィンランドで開かれた国際会議で発表された。本研究プロジェクトでは、研究会活動も重視しており、とくに平成19年度からは、研究代表者が参加している別の萌芽研究プロジェクトと合同で、日本文学・中国文学研究者も交えた「文献学研究会」を定期的に開催して、ライティングシステムの異なる日本語資料の問題も視野に入れて理論面での思考を強化している。代表者が漱石の『心』を題材におこなった考察の成果は、19年度末には京都大学のCOEシンポジウムで、また平成20年度末には、ニューヨークで開催された国際会議 The Society for Textual Scholarship で発表された。なお、アーカイブズ学をめぐる検討についても一定の成果に達しており、平成20年にはそれをアーカイブズ学会年次総会で発表、21年度中にも論文が印刷公表される予定である。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

こう判断する理由のもっとも大きな点は、当初、最終年度の21年度におこなう予定であった国際学会での発表が、すでに20年度において2度おこなわれている点にある。と

くに、計画を若干外れての実践的な試みが思わぬ大きな成果を生み、結果的にそれが理論面での検討に予想外の飛躍をもたらした。

4. 今後の研究の推進方策

すでに、成果のところであつていふように、本プロジェクトは、20年度以降、当初計画を修正しておこなつた実践的な開発がスピノフ作品を生み、それが理論面での研究に大きな影響を与えるという展開に入つていふ。今後、この方向で、実践的な探求を続けながら、そこで得たものを理論にどう組み込んでいくかという高い視点で研究を続けていくつもりである。また、欧米の編集文献学の現状理解に関しても、相応の成果を積んでおり、21年度末には、その集大成として、アメリカ及びドイツから代表的論客を招き、編集文献学に関する日本初の国際シンポジウムを開催する予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計9件)

- 1) Myojo, Kiyoko・Shin'ichiro Sugo, "LiterarySpace: A New Integrated Database System for Humanities Research", *Conference Abstracts Digital Humanities 2008* (The Association for Computers and the Humanities /The Association for Literary and Linguistic Computing), pp.260-262, 2008, 査読有
- 2) 明星聖子, 『心の問題—文学研究のための資料をめぐ—る—考察』, 『漢字文化三千年国際シンポジウム報告書』(京都大学21世紀COEプログラム), pp.14-35, 2008, 査読無(招待講演)
- 3) 明星聖子・内木哲也, 「文学デジタルアーカイビングをめぐる理論的考察—作品とは何か、作者とは何か—」, 『人文科学とコンピュータシンポジウム論文集—デジタルアーカイブへの新地平』(情報処理学

会—人文科学とコンピュータ研究会), pp.153-160, 2006, 査読有

[学会発表] (計5件)

- 1) Myojo, Kiyoko, "Struggling with Soseki: Practices and Problems of Modern Textual Editing in Japan", The Society for Textual Scholarship 15th Biennial International Interdisciplinary Conference, New York, 2009/03.
- 2) 明星聖子, 「文学アーカイブズと編集文献学の関連をめぐって— 一文学研究者からの問題提起 —」, 日本アーカイブズ学会2008年度大会, 東京, 2008/04